

効率性・業務負担だけでなく、経営に資する内部監査を見据えた 統合監査／GRC(ガバナンス・リスク・コンプライアンス) の実務と取り組み事例

◆開催要領◆

●日 時 ● 2016年 10月 31日(月) 13:00~17:00

●会 場 ● 「企業研究会セミナールーム」(東京・麹町) 東京メトロ麹町駅より徒歩5分

講 師 新日本有限責任監査法人 アドバイザリー事業部エグゼクティブディレクター 粟野 友仁 氏

〔講師ご略歴〕米国公認会計士、公認内部監査人、公認不正検査士、日本証券アナリスト協会検定会員。内部監査・モニタリング支援を中心にコーポレートガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンス、内部統制報告制度対応、不正リスク管理等のビジネスリスク関連サービスに従事している。

講 師 新日本有限責任監査法人 アドバイザリー事業部シニアマネージャー 渡邊 誠 氏

〔講師ご略歴〕公認内部監査人、公認情報システム監査人、公認不正検査士、内部統制評価指導士、ITコーディネーター、プロジェクトマネジメントプロフェッショナル。GRCツール、内部監査管理ツール(データベース化やワークフロー化等)、CAATツールの導入支援やデータアナリティクス支援等のテクノロジーを活用した内部監査、リスクマネジメントに関するビジネスリスク関連サービスに従事している。

講 師 新日本有限責任監査法人 アドバイザリー事業部マネージャー 広兼 玲子 氏

〔講師ご略歴〕公認内部監査人、公認不正検査士。内部統制(US-SOX、J-SOX)の構築・運用支援、内部監査態勢の構築、内部監査外部評価、リスクマネジメント・コンプライアンス体制構築等のビジネスリスク関連サービスに従事している。

◆ご参加頂きたい方◆

・内部監査部門の責任者、企画担当者の方々が対象

●受講料 ●1名(税込み、資料代 含む)

正会員	32,400円(本体価格 30,000円)
一般	35,640円(本体価格 33,000円)

■参加要領

申込書はFAX、または下記担当者宛E-mailにてお送り下さい。
当会ホームページからもお申込いただけます。後日、
(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書
をお送りします。

*よくあるご質問(FAQ)は当会ホームページにてご確認いただけます。([公開セミナー]→[よくあるご質問])

*お申込後のキャンセルはお受けしかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理の方のご出席をお願いいたします。

*最少催行人数に満たない場合には、中止とさせて頂く事もありますので、ご了承下さい。

■お申込・お問合せ先

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局
担当) 鈴木 E-mail:a-suzuki@bri.or.jp

TEL:03-5215-3550 FAX:03-5215-0951
東京都千代田区麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

一般社団法人 企業研究会 セミナー事務局宛

申込書 FAX:03-5215-0951

161492-0202	2016.10.31 統合監査/GRCの実務と取り組み事例		
ふりがな 会社名			
住所	〒		
TEL		FAX	
ふりがな ご氏名		所 属 役 職	
E-Mail			
ふりがな ご氏名		所 属 役 職	
E-Mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させて頂きます。
※申込書をご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意願います。

10月31日
(月)

13:00

途中
休憩タイム
あり

【開催にあたって】

組織内には、通常の内部監査、内部統制評価のほか、リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティ、個人情報保護、品質保証、環境など様々な監査・アシュアランス・モニタリング活動があります。

これらを統合するものとして「統合監査」という概念がありますが、監査リソースの非効率や対象部門の負荷ばかりに焦点が当てられ、統合監査がそれほど進んでいるとは言えない状況です。一方で、最近ではコーポレートガバナンス・コードの導入や会社法の改正などの影響もあり、組織体（グループ全体）の経営意思決定や関連部門間の情報共有を通じたガバナンスの向上といった「攻めの経営」の観点で関心が高まっています。そこで、本セミナーでは、従来からの「統合監査」に加え、「GRC（ガバナンス・リスク・コンプライアンス）」の実務上の論点や取扱事例、テクノロジーの活用について解説していきます。

1. 統合監査とは

- (1) 統合監査の定義
- (2) 統合の必要性の高まり
- (3) 統合の目的
- (4) 統合する監査・アシュアランス・モニタリング活動

2. 検討すべき論点

- (1) マネジメントの意向
- (2) 効率化の余地
- (3) 他の監査・アシュアランス・モニタリング活動の状況
- (4) 内部監査の体制と成熟度

3. 統合の取り組み事例

- (1) 時期・テーマの調整
- (2) 類似性の高いマネジメント活動（ERM/QMS）の統合
- (3) ISO9001との調整
- (4) J-SOX以外へのRCMの展開
- (5) テクノロジー（GRCツール）の活用

4. 演習

- (1) 調整・連携を考慮した監査計画・監査手続書の作成

17:00